

令和4年度
臨時号

○○○○●



令和4年度全国学力・学習状況調査について(南小学校)

今年4月に実施された調査の結果から本校児童の学力や学習状況の概要をお知らせいたします。
今年度は国語、算数、理科の3教科と質問紙による調査が実施されました。

国語・・・県よりやや高く、全国より高い
算数・・・県・全国より高い
理科・・・県よりかなり高く、全国より高い



各教科の特に良いあらわれと課題となるあらわれは、次の通りでした。

※各教科の「課題となるあらわれ」の後の数字は問題番号です(問題については裏面参照)。

【国語】

《特に良いあらわれ》

- ・話し言葉と書き言葉の違いを理解する。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える。

《課題となるあらわれ》

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。

1 四

- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。 3二

【学校では…】

- ◎自分の立場を明確にするために、話題についての自分の考え(現状と課題、解決方法、理由など)から整理し、自分の考えを話し合うような、言語活動を充実するようにします。
- ◎書いた文章を読み合う際に、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点で、互いの文章のよいところを見付け伝え合うような、言語活動を充実するようにします。

【算数】

《特に良いあらわれ》

- ・かけられる数に空位のある整数のかけ算の計算をすることができる。
- ・問題場面を解釈し、わり算で求めることができる理由を記述できる。
- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。

《課題となるあらわれ》

- ・概数を使って目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 1(4)

- ・20%の果汁が含まれている飲み物を半分に分けても、割合は変わらないことを理解している。 2(3)

【学校では…】

- ◎問題場面で示されている数量の関係を、図や言葉、式等で視覚化しながら説明し合う活動を大切にします。
- ◎日常場面において、割合が変わらない(割合を変えない)事象について取り上げ、実際に体験したり生活経験と関連付けたりし、実感を伴いながら解決する活動を大切にします。
- ◎全学年で領域をまたいで割合の見方を育むことができるよう、系統性を意識して指導していきます。



【理科】

《特に良いあらわれ》

- ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。
- ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。

《課題となるあらわれ》

- ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 2(4)
- ・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 3(4)

【学校では…】

- ◎実験の過程や得られた結果を、図や表、モデル等を用いて適切に記録し、説明し合う活動を、引き続き大切にします。
- ◎実験結果や観察結果を、問題の視点や他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する学習活動を大切にします。



【学習状況・生活状況の調査結果】

基本的な生活習慣の整った子が多いことや、規範意識が高いことがうかがえました。また、全国や県と比較して以下のような傾向も見られました。

《調査から分かる素晴らしいところ》

- ・朝食を毎日食べている。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・友達と協力するのは楽しいと思う。
- ・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使う。
- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。

《調査から分かる伸ばしたいところ》

- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすること（習い事の先生は除く）。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること。



南小の子どもたちは、どの教科においても「勉強は大切である」「勉強は社会の出たときに役に立つ」と、回答している子が多いです。また、ICT機器の活用においても「勉強の役に立つ」と、回答している子も多いです。1人1台端末を活用した授業が充実していることが子供たちの回答からも表れています。今後も、授業の充実、1人1台端末の活用の充実を図りながら、「知識・技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」という、資質・能力の三つ柱の育成をバランス良く実現できるよう指導を目指していきます。

「学校に行くのが楽しい」「友達と協力するのは楽しい」と、回答している子が多いです。また、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と、回答している子が多いのも本校の特徴です。学校生活や家庭生活において、「相手の気持ちを思いやる」ことを大切にしている成果かと思えます。一方、地域での活動における課題もあります。

今後も、学校、家庭、地域が一体となって、子供たちを育てていけるよう御協力願います。

※全国学力・学習状況調査の問題は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>